

2023年度後期「企画に対する学生評価」

臨地看護学実習企画に対する学生評価

実 習 計 画	実習ガイダンスは、実習を円滑に行うために役立った。 指導教員と実習指導者の連携はとれていた。
実 習 内 容	実習の内容は関連する講義科目と対応がとれていた。 実習中に課された記録・提出物の量は適切であった。 指導教員や実習指導者から適切な助言が得られた。 教員・実習指導者の説明は具体的でわかりやすかった。 受け持ち患者の看護の難易度は、適切であった。 カンファレンスは実習に役立つ内容であった。
実 習 環 境	教員・実習指導者の対応は、学生を尊重したものであった。 安全と事故防止に対する適切な指導と配慮がなされていた。
総 合 評 価	実習によって、看護職者を目指す意欲が十分に高まった。 この実習は全体として満足できるものであった。

- ⑤ 強くそう思う (非常に良い)
- ④ やや思う (良い)
- ③ どちらとも言えない (普通)
- ② あまりそう思わない (あまり良くない)
- ① 全くそう思わない (良くない)

科目名：基礎看護学実習Ⅱ（看護過程と看護実践）

（看護学科第2学年後期／必修）

履修者数：60 配付数：59 回収数：56 回収率：94.9%

*評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12
4.1	3.5	4.1	4.0	4.2	4.2	4.4	4.3	4.3	4.4	4.1	4.0

*評価に対するコメント

基礎看護学実習Ⅱ（看護過程と看護実践）担当教員

回収率が94.9%と高く、学生の皆さんの協力に感謝いたします。指導教員と実習指導者の連携の評価が3.5でした。実習前に各実習病棟の看護師長および実習指導者と担当教員が打ち合わせを行い、実習開始後も患者の状況と学生の学習状況を共有し指導にあたりました。次年度は、さらに看護スタッフとも連携をとり、よりよい実習にしていきたいと思っております。

科目名：成人看護学実習 I（急性期）

（看学科第 3 学年後期／必修）

履修者数：60 配付数：60 回収数：46 回収率：76.7%

*評価結果（平均）

問 1	問 2	問 3	問 4	問 5	問 6	問 7	問 8	問 9	問10	問11	問12
4.4	4.2	4.2	3.7	4.3	4.3	4.2	4.3	4.4	4.5	4.1	4.2

*評価に対するコメント

成人看護学実習 I（急性期）担当教員

実習中の記録物の量に関する問 4 が「3.7」と他項目に比べて著しく低いことは、急性期の特徴である早い実習展開の中での毎日の記録や看護計画立案が学生の負担感を増したためだと考える。一方で、問 4 以外の項目は全て「4.0」以上であり、学生は実習に意欲的に取り組み、この実習企画に対する満足度も高かったとの評価ができる。

科目名：成人看護学実習Ⅱ（外来）

（看学科第3学年後期／必修）

履修者数：60 配付数：59 回収数：44 回収率：74.6%

*評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12
4.6	4.6	4.6	4.8	4.7	4.7	4.7	4.7	4.7	4.7	4.5	4.7

*評価に対するコメント

成人看護学実習Ⅱ（外来）担当教員

成人看護学実習Ⅱは1週間外来各部署での見学主体の実習である。感染症対策にて一時中止していた内視鏡室、入退院センターの実習を今年度より再開することができた。評価はいずれも4.5以上であり良好であった。外来各部署での指導者の皆様に感謝するとともに、学生各々も主体的に実習に取り組んだ結果と考える。ガイダンス内容、実習時間等について改善の意見があったため、今後、よりよい実習となるように企画したいと考える。

科目名：成人看護学実習Ⅲ（慢性期）

（看学科第3学年後期／必修）

履修者数：60 配付数：59 回収数：35 回収率：59.3%

*評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12
4.6	4.7	4.5	4.6	4.8	4.8	4.7	4.6	4.9	4.7	4.6	4.7

*評価に対するコメント

成人看護学実習Ⅲ（慢性期）担当教員

成人看護学実習Ⅲは第三学年後期に実施されている慢性期実習である。本大学病院の6階西、7階東、9階西の病棟の3か所で臨地実習を行っている。患者を1名受け持ち、2週間の期間で看護過程を展開する。今年度も隔日での病棟実習だったが、実習中に課された記録・提出物の量に関しては平均評点が「4.6」であり、隔日での病棟実習は記録・提出物における学生の負担は少ないようだ。他の項目の平均評点は4.5～4.9と高得点であり、学生にとって良好な実習であったと考える。

科目名：母性看護学実習

(看護学科第3学年後期／必修)

履修者数：60 配付数：59 回収数：39 回収率：66.1%

*評価結果 (平均)

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12
4.4	4.4	4.4	3.3	4.4	4.5	4.3	4.2	4.2	4.4	4.2	4.2

*評価に対するコメント

母性看護学実習担当教員

評価は4.0以上がほとんどであり、実習満足度4.2からも実習企画は概ね良好であったと考える。本年度は、臨地で看護実践が可能であった。空き時間を利用し技術練習を行う学生が多く、責任を持って看護実践を行おうとする行動につながっていたと考える。記録の量に関して3.3の評価であり、時間に余裕がないとのコメントもみられた。記録量および自己学習時間も配慮し、よりよい実習のために検討していく。

科目名：精神看護学実習

(看護学科第3学年後期／必修)

履修者数：60 配付数：59 回収数：46 回収率：78.0%

*評価結果 (平均)

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12
4.5	4.3	4.7	4.8	4.4	4.3	4.5	4.5	4.7	4.7	4.3	4.5

*評価に対するコメント

精神看護学実習担当教員

今年度は、実習評価を活かし、模擬患者との看護実践である学内実習を併用した実習を行いました。コロナ禍の影響を受けた病院実習となりましたが、病院や地域で精神の健康問題を抱えながら生活する人々と共に、限られた時間を有効に活用し学べていました。今後も、一人ひとりの学生意見を聴きながら、より学びが深めることができる実習を企画していきます。